議事録

平成２４年度第１回高知県産業教育審議会

日　時　平成２４年６月８日（金）１３：３０～１６：３０
会　場　高知県立伊野商業高等学校　大会議室
出席者　井上喜雄委員、三谷英子委員、山﨑道生委員、山﨑　隆委員、藤田恭子委員、
東　章子委員、近藤三千代委員
教育次長（中山）、高等学校課長（藤中）、企画監（森本）、
課長補佐（竹村、小野）、学校教育企画担当チーフ（高野）、
再編振興チーフ（竹﨑）、定通・産業教育チーフ（北村）
指導主事（農業・水産担当、工業・情報担当、家庭・看護・福祉担当、商業担当、
再編振興担当２名）
伊野商業高等学校（小松校長、楠瀬教頭）

１　開会
（１）教育委員会挨拶
（２）審議会委員の紹介
（３）事務局の紹介
（４）会長・副会長選出
・会長に井上喜雄委員が推薦され、承認される。
・副会長に三谷英子委員が推薦され、承認される。
２　学校視察及び説明
（１）学校視察（施設・設備及び授業）
（２）学校説明（学科改編について）
伊野商業高等学校長（以下：学校長）より説明
質疑
井上委員：２年次からのコース選択はどのようにしているか。
学校長　：コース選択についてのガイダンスを行ったあと、生徒の希望調査をしている。
教室等の収容人員数もあるので最大と最小の人員を決めてコース編成を行いたいと考えている。

【配付資料】
①　次第
②　座席表
③　平成２３年度産業教育審議会委員名簿
④　資料１　　平成２３年度高知県産業教育関係実績書
資料１－１　平成２３年度産業系専門学科及び総合学科等における検定・資格等の取得状況調査表
⑤　資料２　　平成２４年度産業教育関係事業計画
⑥　資料３　　産業社会の変化に適応した魅力ある産業教育の推進
⑦　資料４　　平成２３年度第２回産業教育審議会の概要
⑧　資料５　　県立高等学校再編振興検討委員会及び作業部会の意見等について
（産業教育に関する部分抜粋）
⑨　資料６　　専門学科の課題と今後の在り方
⑩　参考資料　　進路状況

３　議事

（１）会長・副会長挨拶

井上会長・三谷副会長挨拶

（２）資料説明

（３）平成２３年度審議会概要説明

（４）県立高等学校再編振興検討委員会等に関する報告

（北　村）資料３、４の確認

（委　員）了承

（北　村）資料１、２の説明

（企画監）資料５の説明

【質　疑】

会　長　：説明に対する質問はないか。

山﨑（道）委員　：県外就職に対して基本的な考え方を聞きたい。県外に人材を出したくなければ、県内企業に就職させる教育がある。県教委としては、県内への就職をさせたらよいと考えているのか、または、県外へ就職させたらよいと考えているのか。どちらをよいと考えているのか。

企画監　：再編振興の問題だけでなく大きな問題である。雇用の場が県内にあれば県内で就職してもらいたいと考えている。再編振興計画では、就職も進学も含めて検討している。この産業教育審議会の意見を参考に再編振興を考えていきたい。

山﨑（道）委員　：県内の産業は行き詰っている状況である。農業に関しては、ほとんどが兼業農家である。工業については、輸送のコスト面で不利となっている。水産についても大手小売業の値に対抗できていない。また、商業も県外資本に押されている。

しかし、まとめでは、単なる意見だけで、産業を取り巻くさまざまな問題を解決すべき教育論が記載されていないように感じる。

会　長　：本質的な質問であった。次の議題の中で話していきたい。

（５）答申後の課題と今後の方向性について

（北　村）資料６　産業全体についての説明

会　長　：意見をいただきたい。高知県をどのような県にするか大きなビジョンがあれば議論しやすい。

山崎（道）委員　：農業の部門については、本山で有機栽培の学校を運営しており、様々な課題を抱えていることが分かっている。工業や水産についても、生産コストの問題や消費者の少なさなど、様々な問題がある。そういったような赤裸々な現状の対応を議論してもらいたかった。シリアスなものが感じられない印象をもった。

会　長　：県内か県外かどちらに就職するのかといったような話がでたが、県内にも良いものがある。しかし、県内の良さが知られていない。高知の良いところを知ってもらうことが必要である。産業系高校に入学してくる生徒には、不本意入学にならないよう十分環境を整える必要がある。そのためには、しっかり知ってもらう必要があり、同時に生徒にとって気になるのは就職があるのかという点だと思うが、それが見えるような形になっている

のか。

北　村　　：学校としてＨＰや学校説明会などを利用して知らせているつもりであるが、伝わっていない現状がある。県としても積極的に伝えていかなければならないと考えている。

会　長　　：次に進みたい。

（北　村）資料６　工業についての説明

会　長　　：安芸桜ケ丘高校の就職状況を詳しく教えて欲しい。

北　村　　：県内の製造業の求人は一定数ある。昨年度は、県内全体で１６５件あり、他の業種と比べて一番多かった。製造業の中でも就職に有利なのは機械系である。しかし、安芸桜ケ丘高校には、電気・化学、建築系の学科しかないので就職に苦戦しており、この点が原因ではないかと考える。

会　長　　：企業からの求人はあるが、生徒が希望しないのか。求人がたくさんあると理解してよろしいか。

北　村　　：安芸桜ケ丘高校への求人がたくさんあるわけではない。中でも生徒の希望の多い県内の建築・土木系は少ない状況である。

副会長　　：定時制の役割は今後どうなるのか。定員割れが続いていると思うが、年齢構成はどのようになっているのか。専門学校を経営しているが、勤労生が多く、社会のニーズに応える必要があるので続けている。

北　村　　：定時制入学生については、勤労学生は少なくなっている。工業だけでなく県全体的な傾向である。約７割が新規中学卒業生である。

副会長　　：従来の勤労学生の学びの場から学び直しの場と変化しているのか。

北　村　　：不登校の経験者など様々な課題のある生徒も多く、目標をもてない生徒もいる。定時制で学ぶなかで目標をもち頑張っている生徒もいる。こういった生徒の多様なニーズにも対応している。

山崎（道）委員　：工業高校では、３次元ＣＡＤを学んでいるのか。３次元ＣＡＤを使える人材は即戦力となる。

北　村　　：３次元ＣＡＤは全ての工業高校で導入されている。ただし、ソフトは学校によって異なっており、ＣＡＴＩＡ、ＰＲＯ－Ｅなどのソフトで学んでいる。

山崎（道）委員　：しっかり身に付けてほしい。

藤田委員　　：専門性を生かした進路についてであるが、進学についてはバラつきがある。就職については、専門分野に進んでいるのか。また、高知工業高校総合デザイン科や安芸桜ケ丘高校環境エネルギー科などは、専門分野への進学が少ないがそれはどういった理由か。

北　村　　：高知工業高校、高知東工業高校については、専門性を生かした進路となっている。しかし、安芸桜ケ丘高校などは、別の分野に進んでいる生徒も少なくない。女子生徒は男子生徒に比べて、専門分野の求人が少ないと思われ、専門性を生かした進路に進むことは難しいので、女子生徒の多い学科については、そのような傾向がでているのではないか。進学については、まだ分析をしていない。

指導主事　　：高知工業高校総合デザイン科については、デザインの職場環境で、高校３年間だけの学習では専門性を生かした就職は難しい。高校を卒業後、専

門学校に進学し、就職する傾向が一般的であるのではないか。

会　長　：**学校によって、県内・県外にものすごいばらつきがある。これはどういったことか。**

課　長　：地域性が出ている。宿毛工業高校において地元は幡多地区である。幡多地区では、高知市で就職するのも県外で就職するのも、親元を離れる点では同じであると考える家庭もあり、受入れ先の企業の福利面が決め手となり就職先が決まっている。

全般的には、保護者、生徒共に、家から通える企業を第一に希望しており、学校もそのような指導をしている。次に、先輩が入社している県外の企業も考える傾向にある。

会　長　：**同じ学校内で、科による違いについて、何か要因があるのか。**

北　村　：高知工業高校総合デザイン科、須崎工業高校ユニバーサルデザイン科は、女子生徒が多く県内希望が多くなっている。

会　長　：**次の商業に進みたい。**

（北　村）資料６　商業についての説明

東委員　：**産業系高校では、キャリア教育という言葉がよくでてくる。キャリア教育は進路につながる教育であるので、産業系高校では就職を意識したキャリア教育を重視していると理解した。高校のキャリア教育は、人間形成の教育、高校生としての生き方を教育していく場であると思う。**

生徒一人一人を育てるキャリア教育などを実践している学校があれば教えてもらいたい。

指導主事　：高知のキャリア教育の冊子である。高知県では、就学前から高校までの過程で学校、家庭、地域が連携し、社会的・就職的自立のできる子どもを育てるために学力向上、基本的生活習慣の確立、社会性の育成の三つの柱をたて、キャリア教育を進めている。高知南高校、伊野商業高校など、キャリア教育の推進校として様々な取組を行っている。

今年度から各学校の学校計画の中にキャリア教育を取入れている。各学校で教員がベクトルを合わせ、計画的、効果的に指導を行っている。今年からスタートしているので成果は今後現れるのではないか。今年はキャリア教育元年と位置付け、社会から求められる人材の育成を目指し、生徒一人一人に自立できる力を身に付けさせている。

課　長　：高知のキャリア教育Ｐ６、７に修学前から高校までの高知のキャリア教育構想図を示している。「自立」を教育の中心に捉え、学力向上、基本的生活習慣、社会性の育成に必要な力をそれぞれのカテゴリーにおいて身に付けなければならない力を付けることを目指している。小学校、中学校、高校の各視点から作られている。最終段階の高校では社会に出るため必要な自らの将来を切り拓く力を育てることを目標としている。高校の段階では、進路指導が分かりやすいキャリア教育である。だが、高校三年の狭義的な進路指導の場面だけで行う教育ではなく、小学校、中学校、高校と成長の段階で行う進路指導がキャリア教育になる。小学校、中学校、高校と同じ視点でキャリア教育に取り組んでいく。Ｐ２４～２７各段階での事例を載せている。またＰ２７には高校、Ｐ３０には先進的な事例として高知

南中高校の事例を載せている。

東委員　：すばらしい内容である。学校においては、教科書がある授業に慣れている。今までは、キャリア教育についての教科書が無く、生徒も教員もキャリア教育に何を学ぶべきか分からない状態であったと思う。これからは、キャリア教育が重要になってくる。素晴らしい冊子が出来上がったので、しっかりと取り組んでもらいたい。

会　長　：キャリア教育の人間力を上げることはなかなか難しいが、大切なことである。大学においても人間力を上げることは難しい。企業が求める教育と大学で求める教育が一致しなくなっている。実社会に通じる人間力を育成することは、大きな課題である。

山崎（道）委員　：企業から見ると躾が行き届いて規則を守る人材が欲しい。自由と責任、権利と義務これが必ず両方が必要である。今の学校教育では自由があれば責任がある、権利があれば義務があるということを教える場になっていない。自立した人間の育成の前に、自由と責任、権利と義務の原理をしっかりと教えるべきである。今の学校教育で教えることは無理と諦めているので、この点は、社内教育で補っている。

課　長　：Ｐ１６、１７の目標設定は伊野商業高校の事例である。すべての学校で学校経営構想図を作っている。学校が付ける力を明確にし、何をやるべきか全教員で取り組んでいる。この取り組みは、Ｐ→Ｄ→Ｃ→Ａサイクルを回し、次のステップに進んでいく。目指す力を明確にして社会的・職業的自立のできる人材を育成していく。

山崎（道）委員　：キャリア教育を短い日本語で表現してもらいたい。

指導主事　：社会に出て必要な、スキルである技術・能力・体力を身に付け、社会人として自立できる力を養う教育である。

課　長　：教育長は土佐弁で、「おせのぶんたちを育てる」と表している。

会　長　：次に進みたい。

（北　村）資料６　看護・福祉についての説明

近藤委員　：福祉に関してだが、福祉関係に従事している人はやりがいや意思をもって入ってきている。受け入れる事業所側がそれに見合うように待遇を改善していこうということで、地域や社会に貢献していかなければならないところであるが、違うところがある。受入側の意識の低さなどにより、気持ちがマイナスになって辞めたり、資格をもっていても働いていない人もいる。産業教育で学ぶ生徒たちはそのような高い意識をもっているはずなので、学校では、教育だけでなく待遇についても呼びかけてもらいたいたい。

藤田委員　：働く上で最低限必要となる知識やしかるべき所に相談する知恵などについては、学校教育の中でも教えてもらいたい。

山崎（隆）委員　：待遇面は、事業所によって違う。福祉が産業という分類でいいのかという検討もしていただける機会もあればと思う所であるが、市場原理になじまない部分があると思う。労働環境も良くないという事実もある。うちの事業所で言えば、福祉を志して就職した従事者が半分で、残り半分はそれほどでもなかった従事者である。学卒の方も採用しているが、夢や希望をもっていただいているかというと、むしろそうでもなく、言われたことは

やっていただけるが、それ以外はしないという方が多い気がしている。
　個人の印象的なものであるが、部活動を経験した方は、夢や希望を語っていただきやすいという印象をもっている。
　以前、部活動が中退防止にも役立っているという話もあったと思う。
　先ほどの説明の中で、部活動を活性化させているという話もあったが、それも含めてその他の取組があれば説明いただきたい。
　キャリアという言葉もでたが、必ずしも勉強だけではなく、勉強以外の活動もむしろ必要であり、社会に出たときには役に立つと感じる。

学校長　：部活動への入部率は４０％でまだまだ低い。四国、全国大会に出場する生徒がでてきている。
　キャリア教育を手立てに自ら考え行動することを重視している。マナーアップキャンペーンで地域の清掃活動を行っている。この活動を通して生徒が自ら行動するようになった。地域から認められると生徒は変わってくる。知識と体験の場を大切にしている。

山崎（隆）委員　：高知県では、福祉の人材が何人足らないのか。県の担当部署と話はしているのか。

指導主事　：定期的に福祉・介護人材確保の会の中で、関係機関と話し合い情報を共有している。介護に係わる人材は、約７００名～８００名育成する必要があると報告されている。連携はしているが、高校だけで介護に従事する人材育成は無理であるので、一般の人を含めての対策が必要になる。
　また、現在、初任給等も含め仕事の実態をしっかり理解してもらうパンフレットを作製しているところである。

会　長　：高知県は難しい県である。いろいろな意見を前向きに捉えて、県としては取り組んでもらいたい。

副会長　：産業教育というのは、現場に直結している。理想かもしれないが、大事なのは教育者の姿勢である。立派な計画も教職員の方々がどれだけ理解しているか。日々生徒と接触をする教員の意識が大切である。学校の先生への意識づけというのはどのようにやっているのか。何か変わった取組はあるのか。

次　長　：課長から学校構想図の説明があったが、これは、全教職員がつくるんだということで、ベクトルあわせをしている。学校全体として一つの方向を向いてやっていこうというものである。また、人事評価をしていく場合でも、教職員と校長との意思統一をしている。この面談も年２回行い共有している。今年スタートしたものであるが、これが積み上がっていけば、方向付けというものができていくのではないか、また、その成果が生徒の方へ現れてくのではないかと考えている。

会　長　：高校では、部活動の指導や教科以外の活動によく取り組んでいる。これから教員を目指す方は、そのような意識をもっているか。

課　長　：そのような視点で採用試験を行っている。多様な生徒に対応できる指導力や教科の指導力など総合的に力をもっている人材の採用を目指している。また、足りない分については、採用後の研修や研究といったもので更に充実させる必要があると考えている。両面で育てていくといったことが必要であると考えている。

会　長　：看護関係で、良い人材が県外に出ているとの話が出ている。これについ

て細かい分析をしているのか。

指導主事　：高知東高校の看護専攻科においては、６期生が今春卒業した。これまでの１３１名の卒業生のうち、約５割の８３名が県外に就職している。生徒の希望を叶える形で進路指導をしているが、一度は県外で生活してみたいとか、県外の専門性の高い病院で経験を積み、力を付けたいであるとか、福利厚生面で魅力的であるといったような理由で、県外の病院に就職をしている現状がある。しかし、いずれは、県内に帰ってきたいと希望している。

　実習でお世話になる病院からの求人はあるが、就職できていない現状もあり、人材は不足している状況にある。人材育成面では、高知東高校看護科の１学年３０名であるので、そのための対策は高知東高校だけでは難しい状況である。

近藤委員　：**今まで、産業教育に触れたことがなかった。テレビ番組の特集で、都立瑞穂農芸高校が紹介されていた。普通科に入学できなかったから専門系高校に進学しているイメージがあったが、このテレビを観て感動し、素晴らしい教育であると思った。今後も誇りをもって教育に携わってもらいたい。また、産業教育の良さをＰＲしてほしい。**

北　村　：今後、産業系高校の良さをＰＲしていきたいと考えている。